THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS
日刊 建設工業新聞
2016年（平成28年）
5月6日
金曜日
第18935号
発行所 ©日刊建設工業新聞社 2016 〒105－0021 東京都港区東新橋２－２－10 電話03(3433)7151 URL:http://www.decn.co.jp/
企業 （第３種郵便物認可）

この人に聞く

エコ・24社長 波間（はま） 俊一（しゅんいち） 氏

東京五輪関連再開発に提案

◆アスベスト無害化処理事業の展開は

無機系素材を使った独自工法でアスベストの無害化処理・除去を手掛けるエコ・24。関連法規制の改正により、アスベストなど粉じん処理の責任の所在が一段と明確化されたことも背景に引き合いが増え、順調に実績を重ねている。「作業員の健康と周辺環境に影響を与えない対策が最も重要だ」と話す。

◇

――アスベストを取り巻く環境は。

「14年6月に改正石綿障害予防規則が施行され、アスベスト処理の規制がこれまで以上に強化された。規制対象の建物は3000万棟以上あるとされる。環境省は対策市場の規模を8・2兆円と推計しているが、その10倍から100倍あるとも言われる」

「この10年間で取り除きやすい所は取り除いてきた。取り除きにくい電気室やボイラー室、機械室、エレベーターシャフトなどは放置されたままの所もある。内部に断熱材が使用された煙突の封じ込めの要請が学校関係を中心に増えている。2020年東京五輪開催に向けた都内の再開発事業にも提案していく」

――独自工法の優位性は。

「当社が03年から展開する『CAS工法』は、含浸固化剤『エコベスト』（ストレートシリコーンを主成分とするポリシロキサン結合溶液）を低圧噴射の吹き付けによってアスベスト層全体へ染み込ませ、アスベストを非針状化して人体に影響のない形状にする。CAS工法で継続使用する建物は無害化する封じ込め、解体する建物は飛散抑制のための除去を行う。12年に日本建設機械施工協会から建設技術審査証明を取得した」

――その他の事業展開は。

「環境負荷の少ないセラミックコーティング剤を使った事業も展開している。高速道路などに設置されている遮光板（ポリカーボネート板やアクリル板）の透明度を復元する『クリアスカイ工法』もその一つ。メンテナンスの負担軽減につながるほか、景観向上にも有効だ。首都高速道路会社や阪神高速道路会社などから引き合いがあり、本格化する大規模修繕事業で提案していく」

「住宅の屋根などに設置が進む太陽光パネルに黄砂などが付くと発電効率が悪くなる。コーティングして汚れが付きにくくする事業をこれから始動させる。日本貿易振興機構（JETRO）などと協力し、東南アジアでコーティング技術の指導も行っている」

――熊本地震への支援に積極的だ。

「当社のドライ洗浄シートは、水を使わず、においの元をにおいの出ない物質に化学分解して洗浄・消臭できる。東日本大震災の時も喜ばれた。まずは初弾として消臭剤とシートを被災地に1万セット送るつもりだ」。